

## だんじりでつながる保久良四地区 -お祭り鳴り物 クイズ・保久良神社の歴史

著者	小林 幹也, 甲南大学久保ゼミ, 久保 はるか
雑誌名	「大学周辺地域の歴史を知る」シリーズ
巻	3
ページ	5-6
発行年	2019-03
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1260/00003447/">http://id.nii.ac.jp/1260/00003447/</a>

# お囃子の起源

## 伊勢音頭とは

伊勢音頭は、江戸時代の伊勢国で唄われた民謡であり、当時流行した伊勢神宮への参拝（お伊勢参り）を通じて日本全国に広まった。祝儀歌、道中歌、踊り歌など様々な総称がある。伊勢道中歌の意味は「伊勢は良いところなのでまた来てください、気を付けて帰ってください」というものである。

## 保久良四地区と伊勢音頭の関わり

かつて保久良四地区では、十五歳になると村中で大人として認められ、初めて伊勢神宮に連れて行ってもらえるという風習があった。各地区の村人たちは、そのお伊勢参りの際に「伊勢道中音頭」を聴いて持ち帰った。それを基にして、各地区で節や歌詞が異なる伊勢音頭が作られた。各地区の伊勢音頭の節や歌詞に違いが生じているのは、各地区でそれぞれ聞き取り方が異なったためである。現在でもだんじりが宮入するときなどに唄われている。

## 鳴り物クイズ

お囃子をリードしているのは **a** で、バチの握り方や鳴らし方には、その時々のお囃し手の器量が問われます。お囃子の変わり目を指示して、**b**・**c** がそれに従う形で鳴らしていきます。**b** は一定のリズムを奏で、**c** が合いの手を入れるという鳴らし方です。

「はじめ」「曲がり角を曲がる時」「ご祝儀をいただくとき」「宮入」「締め」と各場面で鳴らす音が決まっており、各場面で音を変えることで、だんじりの運行をコントロールしています。また、各地区ごとで奏でられるリズムやテンポに違いがあり、全く同じお囃子というのはいません。

## 保久良神社の歴史

保久良四地区（北畑、田邊、小路、中野）のだんじり祭りの起源は、紀元前五〇〇年頃より氏神様による祭祀が始まりであると考えられています。保久良四地区の氏神様は椎根津彦命（しいねつひこのみこと）であり、保久良神社に祀られています。保久良神社には二つの祭りがあります。古くよりある祖神信仰の大倭祭（一月二〇日）と祇園社祭礼をルーツに防疫・除災・五穀豊穣を祈願した保久良祭礼の二つです。何れも自然信仰（農耕信仰）が起源であり、小正月（とんど）の頃一年の暦・役割を決め実施していました。このように当地の祭礼のルーツを紐解いてみると、自然信仰、祖神信仰、防疫・除災祈願と変化しながら今日まで継承されています。まず自然信仰についてみていきます。稲の生育・収穫祈願のため、春に神様を迎えそこに人々が集まり一年の計画・役割を決めました。これが二月十七日に行われる祈年祭の起源です。共同で田畑を耕し、収穫感謝と神様をお送りする秋の新嘗祭に至るまで、村人総出で執り行う神恩感謝の信仰のことを自然信仰といえます。これが「北畑天王講」の始まりとされています。

次に祖神信仰についてみていきます。自然信仰が広まった後、菟原（うはら）郡を發展された氏族の長である椎根津彦命を祀る祖神信仰が始まりました。椎根津彦命は保久良四地区の祖先に海運技術を伝授しました。その海運技術は、保久良神社の「灘の二つ火」に伝わる火の起こし方、同じく保久良神社にある「磐座」に象徴される重量物運搬技術、そして祭りを通じて一致協力の精神として地域に伝えられ根ざしてきました。そしてそれが現在のだんじり祭りへとつながっています。

最後に、防疫・除災祈願についてみていきます。奈良・平安時代に村が發展し人口が増えてくると、疫病や災害が多発し、各社寺で死んだ人の魂を慰めるようになりました。そこで祇園社の御霊会をルーツに鉦や太鼓を鳴らしながら、生御霊を慰めました。これらをまとめると、自然信仰を遵守してきた地元民と進歩的な椎根津彦命一族が同族結婚し、彼らが祖神信仰を發展させ、さらに防疫・除災祈願へとつなげ、現在の祭祀へと変化してきたと考えられています。

また、四地区では古くから御講講の役割を繋いできました。北畑のみ牛頭天王をお祀りしているため、天王講の名がつけました。田邊は山の神をお祀りしているため伊勢講、中野・小路は元のままの御講講と呼ばれています。その中でも特に、保久良神社の宮本として遺志継承を一大使命とした北畑天王講の人々は時の流れの中に生き、祖神の祭祀と点火（灘の二つ火を灯す）のため、嵐に耐え、風雪に負けず山に登り、歩み続けました。これこそ、弥生時代より現在まで続く保久良神社伝統の「敬神愛山」の道となっています。

Q. 下の鳴り物はa,b,cのどれに当てはまるでしょう。

答えは⑦ページ



半鐘



二丁鐘



太鼓